青森県総合学校教育センター　研究紀要　[2012.3]
Ｇ５－０６

図画工作・美術

図画工作・美術科における鑑賞指導の在り方についての研究
－子どもの発達特性に応じた指導プランの提案－

義務教育課　　指導主事　　芳　賀　　智　志

要　　旨

国立教育政策研究所による「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）」が平成21年度に実施され，「鑑賞の能力」を高めることが「発想や構想の能力」「創造的な技能」をより充実させることにつながることが分かった。そこで，「特定の課題に関する調査結果」を分析し，その結果を基に，子どもの発達特性に応じた鑑賞の指導プランを提案する。

キーワード：図画工作　美術　鑑賞　発達特性　学習指導要領　小中の連携

Ⅰ　主題設定の理由

文部科学省は，「小学校学習指導要領解説　図画工作編」（平成20年８月）及び「中学校学習指導要領解説　美術編」（平成20年９月）において，内容の改善として，「鑑賞領域では，鑑賞活動を通して，話合ったり，批評し合ったりする言語活動の一層の充実を図る」ことを強調した。

このような背景として，学校現場で「表現（制作）」を重視している傾向があること，子どもの発達特性に応じた鑑賞指導の実践が少ないことが考えられる。

本研究は，学習指導要領の鑑賞の目標と内容が子どもの発達特性に着目していることを踏まえ，平成21年度に実施された，「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）」の鑑賞に関わる調査結果を分析することにより，鑑賞指導の課題と改善点を明らかにする。

学習指導要領（図画工作・美術）改訂に伴う改善の基本方針に，「児童生徒が生活を明るく豊かにし生涯にわたって楽しく描いたり，つくったりする創造活動を促すことを重視し，表現や鑑賞の喜びを味わうとともに，豊かな表現活動や鑑賞活動をしていくための基礎となる資質・能力を一層育てられるようにする」とある。生涯にわたって美術や芸術に親しむためには，知識や技能を教え込むのではなく，豊かで質の高い学習経験が必要だとしている。そのためには，発達特性に応じた学習経験を系統的・意図的に行うとともに，適切な指導と評価をしていかなければならない。図画工作・美術は，活動（＝学習経験）そのものを重要視する教科である。感性を培う教科の特性を生かし，より効果的な指導の充実に向けたカリキュラムづくりが必要と考える。そこで，本研究では小学校段階から中学校段階までの発達特性に応じた図画工作・美術における系統的な鑑賞の指導プランを提案するものである。

Ⅱ　研究目標

学習指導要領や「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）」から，図画工作・美術における発達特性（「感覚や体験」「他者と自分」「社会と文化」）と鑑賞指導の関連を検証し，子どもの発達特性に応じた指導プランを提案する。

Ⅲ　研究の実際とその考察

１　新・旧の小・中学校学習指導要領の鑑賞に関する取扱い

新・旧の小・中学校学習指導要領の鑑賞に関する目標と内容については，表１のとおりである。

２　小・中学校の学習指導要領に見られる鑑賞の発達特性

小・中学校学習指導要領（平成20年告示）の記述から，図画工作・美術の鑑賞で扱う対象並びに活動を通

して子どもにもたせ，高めたい意識は，以下のように分類される。

扱う対象については，①小学校低学年「身の回りの作品など」，②小学校中学年「身近にある作品など」③小学校高学年「親しみのある作品など」，④中学校「美術作品など」である。

また，活動を通して子どもにもたせ，高めたい意識については，①小学校低学年「楽しく見ること」「気付くこと」，②小学校中学年「感じ取ること」「違いが分かること」，③小学校高学年「感じ取ること」「意図や特徴などをとらえること」④中学校第１学年「見方や感じ方を広げること」「美術文化に対する関心を高めること」，⑤中学校第２・３学年「幅広く味わうこと」「美術の働きについて理解すること」「美術を通した国際理解を深め，美術文化の継承と創造への関心を高めること」としている。

さらに，鑑賞指導では，学年ごとに他者の視点を重視している。感じ取り，見方を広げるためには，ただ見るだけではなく，他者との対話をもつことでより見方が深まるからである。小学校学習指導要領においては，「友人」という言葉を用いて，次のように分類している。

①小学校低学年「友人の話を聞くこと」。これは，意見の交流ではなく，自己の「感覚」や「体験」そのものを大切にしているということである。②小学校中学年「友人と話し合ったりすること」。これは，意見の交流をする中で，いろいろな表し方や材料による感じの違いを他者の意見を基に見方を広げるということである。③小学校高学年「友人と話し合ったりすること」。これは，他者の意見を基に，表現の意図や特徴など，より深い見方をし，「社会」「文化」と「美術作品」との関わりを知るということである。

表１　学習指導要領における「鑑賞」の取扱い

		新学習指導要領（平成２０年告示）	学習指導要領（平成１０年告示）
小学校	第1学年及び第2学年	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　身の回りの作品などから，面白さや楽しさの感じ取るようにする。 ２　内容　Ｂ鑑賞 (1)　身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して，次の事項を指導する。 ア　分たちとこなる材料などを楽しく見て感じすることや，友人の話を聞いたりすることなどを通して，形や色，表し方の面白さ，材料の感じなどに気付くこと。 イ　身近にある作品などから，よさや面白さを感じ取るようにする。	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　かいたり，つくったりしたものなどを見ることに関心をもち，その楽しさを味わうようにする。 ２　内容　Ｂ鑑賞 (1)　かいたり，つくったりしたものを見ることに関心をもつようにする。 ア　自分たちの作品の形や色，表し方の面白さなどに気付くことなどして，見ることに関心をもつようにする。 イ　身近な材料に触れ，その感じについて話したり友人の作品の表したかった気持ちを聞いたりするなどして楽しく見ること。
	第3学年及び第4学年	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　身近にある作品などから，よさや面白さを感じ取るようにする。 ２　内容　Ｂ鑑賞 (1)　身近にある作品などを鑑賞する活動を通して，次の事項を指導する。 ア　自分たちとこたちとの合やり方や材料による感じの違いなどに気付くこと。 イ　自分たちの作品やそれらを大切にしようとする気持ちをもつこと。	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　自分たちの作品や身近にある作品，材料のよさに関心をもち，その楽しさを味わうようにする。 ２　内容　Ｂ鑑賞 (1)　作品などのよさや面白さなどに関心をもって見ることにより，分かったことや思ったことを話したり，友人の話を聞いたりすること。 ア　自分たちの作品の形や色，表し方の面白さなどについて分かったことや思ったことを話したり，友人の話を聞いたりすること。 イ　親しみのある美術作品や製作の過程などのよさや面白さなどについて，感じたことや思ったことを話し合うなどしながら見ること。
	第5学年及び第6学年	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　親しみのある作品などから，それらを大切にする気持ちを高めるとともに，それらを感じ取ることなどを通して，次の事項を指導する。 ２　内容　Ｂ鑑賞 (1)　親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して，次の事項を指導する。 ア　自分たちの作品，我が国や諸外国の作品などに親しみを感じ取ることなどを通して，よさや美しさを感じ取ること。 イ　人とこたちとの合った思いや特徴などを話したり，友人の話を聞いたりすることなどを通して，表現の意図や特徴などを感じ取ること。	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　作品などを進んで鑑賞し，そのよさや美しさなどを感じ取り，感性を高めるとともに，それらを大切にするようにする。 ２　内容　Ｂ鑑賞 (1)　作品などを鑑賞し，それらのよさや美しさに親しむよう，方の作品や表し方の変化などに関心をもつ。 ア　自分たちの作品や表し方の意図や特徴などに関心をもって見ることにより，表現の意図や特徴などを感じ取ること。 イ　我が国の親しみのある美術，暮らしの中の作品などの美しさ，表現の意図などに関心をもって鑑賞すること。
中学校	第1学年	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　自然な心の造形や美術作品などについての基礎的な理解や鑑賞の能力を高め，よさや美しさを感じ取る能力を育てる。 ２　内容　Ｂ鑑賞 (1)　美術作品などのよさや美しさを感じ取る活動を通して，次の事項を指導する。 ア　造形的な美しさを感じ取ることなどを通して，鑑賞に関する次の事項を指導する。 イ　美術文化に対する関心を高めるとともに，美術を愛好する心を育てる。	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　自然や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ，よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てる。 ２　内容　Ｂ鑑賞 鑑賞の活動を通して，次のことができるよう指導する。 ア　想像力を働かせ，美術作品や児童生徒の表現などに表れる意図や特徴などを感じ取り，作品の良さなどを見方を広げ，多様な表現の工夫よさなどに関する事項を指導する。 イ　美術文化に対する関心を高めるとともに，美術を愛好する心を育てる。
	第2学年及び第3学年	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　自然なものとの造形的な美しさを感じ取り，美術作品などの造形的な美しさを理解するとともに，美術文化に対する関心を高めるようにする。 ２　内容　Ｂ鑑賞 (1)　美術作品などのよさや美しさを感じ取る活動を通して，次の事項を指導する。 ア　造形的な美しさを感じ取ることなどを通して，鑑賞に関する次の事項を指導する。 イ　美術文化に対する関心を高めるとともに，美術を愛好する心を育てる。	第２　各学年の目標及び内容 １　目標 (3)　自然，美術作品などについての理解や文化遺産などに対する関心を高めるとともに，美術などを味わう鑑賞の能力を高める。 ２　内容　Ｂ鑑賞 鑑賞の活動を通して，次のことができるよう指導する。 ア　作者の見方や意図と造形的な表現の工夫などを理解もしくは，作品の良さや美しさを通して，深め美術の価値意識や心方批評し合い，よりよい鑑賞の仕方を工夫し，自己の鑑賞を深め，作品の良さや美しさを味わう。 イ　日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたりすることなどを通して，日本の美術文化遺産などに対する関心を高めるとともに，美術を愛好する心を育てる。 ウ　現代及び過去の美術作品などを通して，表現や鑑賞の文化遺産を深め，美術を愛する心を高める。 エ　代表的な美術作品などを通して，自己の表現や鑑賞の文化遺産を深め，美術を愛する心を高める。 オ　自然，人間，社会と美術との関わりを理解し，美術を愛する心を高める。

また，中学校学習指導要領においては，「説明し合う」「批評し合う」活動を重視している。これは，他者の意見を取り入れながら鑑賞活動を行い見方を広げることが，生活を美しく豊かにする美術の働きや伝統と文化に対しての理解を深め，生涯にわたって美術を愛好する心情を培うということである。

このように，図画工作・美術の学習指導要領は，子どもが「鑑賞の能力」を高めるための段階を，子ども自身の意識という視点と他者との対話という視点によって構成されている。この系統的な段階を，鑑賞指導における子どもの発達特性と考える。

３　「特定の課題に関する調査－小学校図画工作・中学校美術－」の調査結果

(1) 調査の概要

調査対象学年　小学校第６学年及び中学校第３学年

調査実施日　　小学校　平成21年12月１日～平成22年２月26日

　　中学校　平成21年11月19日～12月17日

調査実施学校数及び児童生徒数　全国の国公立私立学校から無作為抽出

　　小学校　119 校　約3,500 人　　中学校　104 校　約3,300 人

調査内容・調査方法

	内容	調査Ⅰ	調査Ⅱ
図画工作	内容Ａ 約2,300人	○調査ＡⅠ　発想や構想の能力 【絵に表す能力】	○調査ＡⅡ　鑑賞の能力 【ペーパーテスト】
	内容Ｂ 約1,200人	○調査Ｂ　鑑賞の能力及び創造的な技能 【ペーパーテスト及び木片を用いてつくる実技】	
美術	内容Ａ 約2,200人	○調査ＩＡ　鑑賞の能力及び発想や構想の能力 【ペーパーテスト及びデザインに表現する実技】	○調査Ⅱ　鑑賞の能力 【ペーパーテスト】
	内容Ｂ 約1,100人	○調査ＩＢ　発想や構想の能力	

(2) 「鑑賞の能力」に関する調査結果の概要

「鑑賞の能力」に関する調査結果は，表２のとおりである。今回の調査は，図画工作，美術ともに，表現と鑑賞の能力に特化した出題と，表現と関連付けた鑑賞の能力を測る出題であった。

表２　調査結果の概要

	調査番号 【学習指導要領の内容】	調査結果の概要 （数字は通過率）
図画工作	ＡⅡ１（1）① ② （2） 【Ｂ鑑賞（1）ア】	○表し方と表し方の工夫を両方正しく選択した児童は，①では 74.9 % ②では 85.2 % ○花びらについて，表現の意図とその表し方の工夫を妥当に記述した児童は，70.1 %
	ＡⅡ２（1）① ② ③ （2） 【Ｂ鑑賞（1）イ】	○屏風を折ることによって，「二頭の動物がいっそう親しく話をしているようになった」理由として，ふさわしい屏風の見え方の変化を選択した児童は 82.3 % ○屏風を折ることによって，「動物が一層元気に歩くようになった」理由として，ふさわしい屏風の見え方の変化を選択した児童は 66.5 % ○屏風を折ることによって，「背景がいっそう広がるようになった」理由として，ふさわしい屏風の見え方の変化を選択した児童は 67.0 % ○屏風を使ってみたいと思う場面を選択した理由として，動物や背景の様子，形や色，全体の雰囲気などを１つ取り上げて適切に記述した児童は 69.6 %
	Ｂ２　（1）① ② （2） 【Ｂ鑑賞（1）ア】	○足が動いているような感じにするための釘の打ち方の工夫について記述した児童は 78.2 % ○作者の表現の意図と釘の打ち方の工夫について記述した児童は 88.9 % ○腕に見立てた木片を１本の釘で止め，足に見立てた木片を２本の釘で止めた作品を鑑賞し，腕と足の釘の使い方の違いを記述した児童は 86.5 %
美術	ＩＡ１－１ ２（1） ２（2） ３（1） ３（2） ３（3） 【Ｂ鑑賞ア】	○写真とイメージを表す文の両方について，手前の風景がその奥にあるものの大きさをより際立たせている内容のものを選択した生徒は 73.6 % ○絵と写真を，「強く感じられる線」に着目してとらえ，木の強く感じられる線を描いた生徒は 57.2 % ○「強く感じられる線」の効果として奥行きを選択し，同じ効果の線が見られる写真を選択した生徒は 42.1 % ○４枚の絵の構図の特徴をとらえ，構図のイメージに近い手のポーズの写真を全て正しく選択した生徒は 50.1 % ○手のポーズの変化を写真から読み取り，それにより浮世絵の何を表現しようとしたのかについて，正しく選択した生徒は 51.2 % ○写真の変更点から，「風」又は「嵐」と記述した生徒は 70 %
	ＩＡ２－１ ２（1） ２（2） 【Ｂ鑑賞エ】	○幼児向けのクッキーをイメージして形と色彩を変更したパッケージについて，色彩の変更に関することと模様の追加に関することを記述し，それらにより生じた効果を適切に記述した生徒は 91.0 % ○問題文のメモに記述されたせんべいのイメージと表現の工夫に当てはまるパッケージの　デザインを全て正しく選択した生徒は 66.4 % ○パッケージのデザインから伝わる妥当なイメージを記述し，形又は色について記述した生徒は 49.8 %
	ＩＡ３-１① １② １④ １⑤ 【Ｂ鑑賞エ】	○統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として，濃淡（色）を統一したと理解できる内容を記述した生徒は 69.3 % ○統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として，形を分かりやすくしたと理解できる内容を記述した生徒は 64.2 % ○統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として，図の大きさを統一したと理解できる内容を記述した生徒は 85.2 % ○統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として，枠を統一したと理解できる内容を記述した生徒は 32.6 %
	Ⅱ－１　１Ａ １Ｂ 【Ｂ鑑賞ア】 ２ 【Ｂ鑑賞イ】 ３（1）Ａ ３（1）Ｂ ３（2） 【Ｂ鑑賞ア】 ４ 【Ｂ鑑賞イ】 ５ 【Ｂ鑑賞ア】	○絵の表現において立体感を表すための描き方として，陰影を選択した生徒は 77.6 % ○絵の表現において人物の特徴を効果的に表現するための描き方として，単純化や強調を選択した生徒は 66.1 % ○２枚の絵の表現の特徴から共通する表現方法として，浮世絵版画を選択した生徒は 72.4 % ○２枚の風景画の共通する遠近の表し方として，建物の「線」によることを選択した生徒は 71.3 % ○２枚の風景画の共通する遠近の表し方として，遠景を「かすむようにぼかして」描くことを選択した生徒は 87.6 % ○線遠近法と空気遠近法の両方の表し方がはっきりと見られる作品である作品⑩を選択した生徒は 85.2 % ○水墨画の作品⑥，金箔を貼り，屏風に表された作品⑦の両方の作品の表現方法が見られる作品を選び，かつ，選択した作品と作品⑥作品⑦との表現方法の共通点をそれぞれ記述した生徒は 9.4 % ○「医師ガシェの肖像」同一作者の作品である作品⑫を選択し，線の描き方などの表現方法の共通点を正しく選択した生徒は 56.8 %
	Ⅱ－２　① ② 【Ｂ鑑賞オ】	○自然の色や形を装飾として取り入れた作品と他の作品を比較し，装飾の視点で自然を生かしていくことと，自然を生かした効果の両方を適切に記述した生徒は 50. 6 % ○竹や木を素材として取り入れた作品と他の作品を比較し，素材の視点で自然を生かしていることと，自然を生かした効果の両方を適切に記述した生徒は 60.6 %

(3) 通過率の低い問題についての分析

ア　小学校図画工作調査ＡⅡ２(1) ①②③

この問題は，屏風を折ることによる感じ方の変化についての理由を選択するものである。出題に当たっては，屏風絵（図１）を小さく印刷したカードを配付し，実際に折ったり伸ばしたりしながら，見え方や感じ方の変化について考えることができるように配慮されている。

それぞれの出題内容と通過率は以下のとおりである。①「屏風を折ることによって，二頭の動物が一層親しく話をしているようになった理由を選択する」の通過率は，82.3%と高かった。しかし，②「屏風を折ることによって，動物が一層元気に歩くようになった理由を選択する」の通過率は，66.5%となり，15.8ポイントの低下であった。

図１　小学校図画工作調査問題で使用した屏風絵

この要因としては，屏風の中央付近に描かれている動物の顔が足よりも着目しやすく，動物の顔に着目できても足に着目できなかった児童が多かったためと考えられる。また，③「屏風を折ることによって，背景が一層奥に広がるようになった理由を選択する」の通過率は67.0%であり，顔には着目していたが，背景に着目できなかった児童が多かったと考えられる。つまり，正しい選択ができなかった児童の多くは，「見るための視点」が定まらなかったということである。小学校の鑑賞においては，実際に作品を操作しながら，さらに，「見るための視点」を示すことが，重要だと言える。

イ　中学校美術調査Ⅱ問題１－４

この問題は，図２の水墨画の作品⑥，金ぱくを貼り，屏風に表された作品⑦を鑑賞し，それぞれの作品と共通する表現方法が見られる作品を，図３の作品⑧から⑫の中から１枚選択し，作品⑥と⑦との表現方法の共通点をそれぞれ記述するというものである。

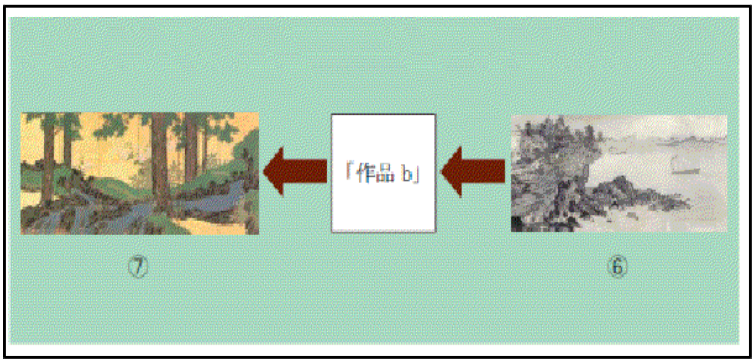

図２　中学校美術調査問題

選択した作品とその理由の記述が両方とも適切であった生徒の通過率は，9.4 %と非常に低かった。一方だけ正しかったものとして，「共通点として金ぱく又は屏風などの視点で記述」の通過率は22.1%であった。

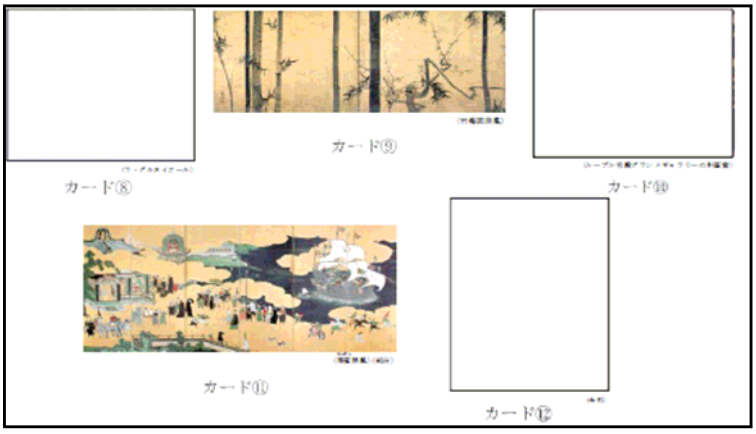

図３　中学校美術調査問題（選択するカード）

その他の解答類型では，「作品⑥と作品⑦の両方とも表現方法の共通点を記述していない」が55.0%であり，「いずれか片方は共通する表現方法を記述した」が35.6%であった。また，表現方法の共通点のうち，「水墨画の視点で記述した」は21.5%であり，表現方法を記述したものの中では割合が高かった。水墨画という表現内容の特徴が捉えやすかったと考えられる。

さらに，「木などの描かれている表現の内容など，表現方法以外の共通点を記述した」は，作品⑥が18.2%，作品⑦が30.9%であり，表現方法という用語の意味の理解が不十分な生徒がいたと考えられる。

中学校美術の調査においては，表現内容と表現方法という用語の混同や空気遠近法や線遠近法といっ

た「知っていること」が見るための要素となっていることが明らかになった。

つまり，通過率が低かった理由の一つとして，中学校美術では，鑑賞の場面で，美術作品についての「知識」を基に授業が行われていることが多いと考えられる。

(4) 鑑賞指導の改善に向けた考察

ア　小学校図画工作

図画工作の鑑賞指導では，児童一人一人が具体的に鑑賞の能力を働かせることができるように，描かれているものや背景，形や色などの造形的な特徴，全体的な雰囲気などから，作品を様々な視点から捉え，これを基に作品のよさや美しさ，表現の意図や特徴について考えることが大切である。今回の調査においては，その具体性と様々な視点をもたせるために，印刷したカードを折ったり伸ばしたりするという操作をし，視点を変えて考えるという方法をとっている。この「操作性を取り入れる」ことによって，多くの児童は自然と作品に関心をもち，見ることに集中していったのではないかと考えれられる。図画工作における鑑賞指導は，この「操作性を取り入れる鑑賞」が，作品に対して関心を高め，実感を伴う見方につながると言える。

これ以外に，鑑賞の授業において操作性を取り入れる場面の具体例は，以下のようなものが考えられる。

①作品を前に，自分の体全身を使って，作品に描かれていることや作者の表したかったことなどを表現し，そこで気付いたことや，感じ取ったことを発表し合う。

②抽象作品や立体作品などを，向きや角度を変えながら鑑賞し，それぞれの視点で見たときの見え方の違いや感じ取り方の違いについて発表し合う。

③表現との関連で製作途中の作品から自分の製作意図をいったん整理し，それを文章化したものと併せて展示し，相互に鑑賞し合うことで新たな視点や表現の仕方の工夫につなげる。

④作品の表現技法や作者の思いを考え，実際にその特徴を生かしながら表現することで，表現技法や作者の心情に迫る鑑賞を行う。

また，今回の調査で，「顔」から「足」そして「背景」へと視点の変化とともに通過率が低くなった原因は，質問紙の文章から「鑑賞の視点」を明確化できなかったということである。鑑賞指導では，学習指導要領における［共通事項］の形・色など造形的な要素を視点として示すことが重要である。「鑑賞の視点」を提示することは，その作品を一人一人の児童が，ただ漠然と見て感じるのではなく，自分の考えたことや感じたことを深め，他者との交流を深めるために大切なことである。

さらに，その視点で見取ったことから，自分のイメージを説明したり，ワークシートに記入したりするなど，自分の感じたことの根拠を明確にし，他者との交流を深めながら，より具体的に表現することが重要である。

イ　中学校美術

美術で培いたい力は，「色や形，材料などを豊かにとらえる力」，「そこに視点を当てて自分の思いをもち，あるいは，それを用いた発想や構想をする力」である。

中学校では，知識を中心とした鑑賞授業が行われることがある。画家の生い立ちや美術史における位置付け，時代や文化と作品の関連等に特化した鑑賞である。しかし，作品から作者の意図や表現の工夫を感じ取ったりするための実感を伴う見方をねらいとした授業においては，知識を豊富に与えることが妨げになることがある。それは，知識に裏付けされる決められた事実ばかりを見ることで，見取る内容がずれることがあるからである。それ故に，鑑賞の授業では，作品そのものから見取ることによる自己のイメージや感じ取った事を表現することが重要である。

今回の調査においても，「作品の共通点を記述する」の通過率が低かったのは，知識を基に記述することにとらわれて，作品からのイメージや感じ取った事を基にした表現方法を見取ることと，それを言葉として記述することに課題があったと言える。

この改善のためには，様々な表現方法で描かれた作品を取り上げるなど，表現方法等に着目して鑑賞をし，そのよさや効果を実感するような指導をすることが大切である。また，その実感したことを基にして，言葉によって様々な視点に気付かせ，他者と話し合うことや批評し合わせることで，新たな見方をもたせることも重要である。

複数の作品を取り上げ，実感を伴う鑑賞指導の具体例は，以下のようなものが考えられる。

①複数の作品を並べ替え，その理由を説明し合うことで，それぞれの作品の表現方法や作者の表現意図に迫る。

②複数の作品の中から，共通点のある２枚の作品を選び出し，その選んだ視点を説明し合うことでより一層見方を深める。
③複数の作品の中から異なる点のある２枚の作品を選び出し，その選んだ視点を説明し合うことでより一層見方を深める。
④複数の作品の中からランダムに２つの作品を選び，その共通点または，異なる点を見る視点に沿って説明し合うことでより一層見方を深める。
また，表現と関連付ける鑑賞指導においては，その作品から受けるイメージや作者の意図を感じ取ったり，話し合って深めるたりすることにより，そのイメージや意図を自分の作品に反映させて制作することなどが考えられる。

ウ　図画工作・美術の連携

これまでの検証から，図画工作・美術の連携を図るための鑑賞指導の改善点は，以下のように整理できる。
①小学校での操作性を取り入れた鑑賞の学習経験を踏まえ，中学校では，複数の作品から表現方法等の共通点や差異などを見付け，話し合ったり，批評し合ったりする場面を設定し，より実感を伴う鑑賞指導の改善を行う。
②小学校での鑑賞の視点を定めて，見て，話して，聞いて，話し合う学習経験を踏まえ，中学校では，作品から受けるイメージや作者の意図を感じ取ったりする場面を設定し，それを自分なりの表現や制作につなげたりすることで，より社会や文化と関連付けた鑑賞指導の改善を行う。
このようなことを踏まえ，鑑賞指導のより一層の充実のために，「培いたい鑑賞の能力」を発達特性との関連で，より明確にし，高め，図画工作と美術の連携を進めていくことが大切である。
図画工作・美術は，学習活動そのものを重視しているという特性をもった教科である。例えば，扱う鑑賞作品は多様であり，見るための作品選択等は，「培いたい鑑賞の能力」との関連で行われ，全ての学校で共通に扱う作品は定められていない。そのような中で，豊かな学習活動を行い，「培いたい鑑賞の能力」をより効果的に高めるために，発達特性に応じた系統性のある題材を設定する等の取組が求められる。

４　子どもの発達特性を踏まえた鑑賞の指導法

今回の調査の対象は，小学校６年生と中学校３年生である。本研究では，この調査問題で扱った作品を活用した発達特性ごとの鑑賞題材例を作成し，上記以外の学年における鑑賞の指導プランを提案する。
調査問題を活用することについては，標準化されており，発達特性ごとの整理にふさわしいと考えたからである。なお，小学校低学年のみ，その発達特性から，調査問題で使われた作品を直接用いず，屏風という設定のみを活用することとした。

(1) 子どもの発達的特性を踏まえた目標レベル

新井哲夫は，「図画工作・美術科における鑑賞授業モデル及びプログラムの開発に関する研究」（平成12年度～平成14年度科学研究費補助金基盤研究(c)(2)研究成果報告書　2003年）において，子どもの発達特性を踏まえた鑑賞教育の目標レベルを以下のように示した。（様式一部変更。文頭に記号を付した。）

<table>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="5">低　←　目標レベル　→　高</td></tr>
<tr><td rowspan="3">小学校</td><td>低学年</td><td colspan="2">Ａ表現活動と未分化な活動でプレ鑑賞活動を楽しむ。</td><td colspan="2">Ｂ興味深いモチーフを探したり，色や形の面白さを見つけて遊ぶ。</td><td>Ｃ表現されている内容やモチーフを確かめながら，じっくりと見る。</td></tr>
<tr><td>中学年</td><td>Ｄ画面から物語を想像したり，身近な経験に重ね合わせたりしながら，作品の世界に遊ぶ。</td><td>Ｅ作品に表現された色や形の面白さや美しさを楽しむ。</td><td colspan="2">Ｆ表現されている内容やモチーフを確かめながらじっくりと見る。</td><td>Ｇ自分が好きな作品や気に入った色や形の表現について，自分なりの言葉で発表し合う。</td></tr>
<tr><td>高学年</td><td>Ｈ全体の雰囲気や印象を感じ取りながら，表現された世界や表現のよさを楽しむ。</td><td>Ｉ作品の意図やねらいを想像したり推理したりしながら，表現された世界や作品のよさを味わう。</td><td>Ｊ表現されている内容やモチーフについて隠された意味や表現上のねらいなどを推し量りながら見る。</td><td>Ｋ表現や制作の方法とその効果に関心をもって見る。</td><td>Ｌ鑑賞を通して，美術の活動や作品が自分たちの生活や造形表現に深い関連があることを理解する。</td></tr>
</table>

中学校	○美術の世界に親しむ		
	a 全体の雰囲気や印象を味わい確かめながら，表現された世界や表現のよさを楽しむ。	b 作品が生まれた時代や社会などにも目を向けながら，表現された世界を深く味わう。	
	○美術の世界を探る		
	c 作品に見られる影響関係や歴史的・社会的背景などを確かめながら見る。	d 多様な表現や制作の方法と作者の意図との関連に関心をもって見る。	e 作者の個性や歴史・風土，文化や伝統などに目を向け，造形表現の多様な展開とそれぞれの独自の魅力などに関心をもって見る。
	○美術とは何かを考える		
	f 美術の諸活動が身近な生活や社会の営みに果たす役割に関心をもって作品を見る。	g 時代や社会の変化と造形表現の変化に関心をもって作品を見る。	

この目標レベルを基に，発達特性との関連で鑑賞の題材例を設定する。なお，中学校の題材例は，小学校とのつながりを考え，第１学年を対象とし，上記表の「○美術の世界に親しむ」目標レベルａｂ段階での設定とした。また，題材例に示したアルファベットは，表中の目標レベルに対応させている。

(2) 題材例１　小学校低学年

１　題材名　「ぺったんころころおりおりみるみる」

２　目標

身近な材料に関心をもち，思いのままに表し，最後に折って立てて見ることで，形や色と表し方の面白さに気付いたり，楽しさを感じたりしている。

３　題材について

本題材は，段ボール等の厚手の台紙に屏風（びょうぶ）状の折り目を入れたものにローラーやスポンジ，空の容器など身近な材料を使って表現する操作的な活動をまず行い，次に，それを折って屏風状に立てて見ることで視点を変えて鑑賞活動を行い，形や色と見え方の変化を楽しく見る題材として設定した。

４　主な学習活動（全２時間）

段　階	学習活動（**目標レベル**）
導　入	○事前準備 ・体育館やワークルームなど，できるだけ広い環境を用意する。 ・スタンピングに必要な材料を豊富に用意する。 ○準備した材料を見て，実際に触れてみることでこれからの学習活動に関心をもつ。（Ａ） ○グループごとに台紙に材料や色を選びながら，表現活動をする。（ＡＢ）
展　開	○作品を床面においたままの状態で，「表現活動で楽しかったこと」と「できあがった作品を見て感じたこと」を発表する。（Ｂ）
まとめ	○できあがった作品を折って立てる。 ○「見え方や感じが変わったこと」について発表する。（Ｂ）

５　子どもの発達特性を踏まえた目標レベルとの関連

目標レベルＣとの関連が明確ではない。しかし，「確かめながら，じっくりと見る」という活動は，この題材において，表現活動の段階を充実させたり，友人の発表をしっかり聞かせたりすることで関連を図ることができる。

(3) 題材例２　小学校中学年

１　題材名　「和の似合う場所」

２　目標

屏風絵の造形的な特徴や，折らない状態と折ったときのイメージの違いを感じたり，話し合ったりすることで「和のイメージ」をもち，屏風絵を置く場所や組み合わせるものを考えたりしながら造形的な活動を行う。

３　題材について

本題材は，屏風絵を屋外に設置し，和のイメージを基に屏風の周りに材料（自然物など）を配置する活動の中で感じたことや思ったことを話し合い，さらに，それを全体で鑑賞することで，そこで生まれたよさや面白さを感じ取り，いろいろな表し方や材料による感じの違いを知る題材として設定した。

4　主な学習活動(全２時間)

段　階	学習活動（目標レベル）
導　入	○事前準備 ・図１の屏風作品をカード状に作ったものを準備する。 ・感じたことを記入するためのワークシートを準備する。 ・デジタルカメラを用意する。 ・グループ活動の後で配付するまとめの画用紙を用意する。 ○図１のカードを配付し，次の３点について一人一人の意見をワークシートにまとめる。 １　２頭の動物はどんな話をしているのか。（Ｄ） ２　実際に屏風を折ってみて形や色の変化で気付いたこと。（Ｅ） ３　なぜ，屏風は折って使うのか自分なりに考えたこと。（Ｆ） ○それぞれが記入したことをグループで発表し，このカードから受けた印象をまとめる。
展　開	○グループで話し合いながら，屏風の設置や材料（自然物など）を配置する活動を行う。 １　それぞれの印象を基に，校庭で屏風を置く場所を選ぶ。 ２　和のイメージを持ち，屏風の周りに組み合わせる材料（自然物など）を置いてみたりし，屏風とその材料をデジタルカメラで撮影する。（Ｆ）
まとめ	○グループ活動の後，画用紙に写真を貼り，その周りに解説を記入する形でまとめる。（Ｆ） ○作成したものを教室に掲示する。 相互の活動のよさや面白さに気付くことができるようにする。（Ｇ）

5　子どもの発達特性を踏まえた目標レベルとの関連

目標レベルＤ～Ｇまで全て網羅するように題材例を設定した。ただし，実際は評価との関連で，目標設定が多すぎると授業が焦点化され難いことがあるため，活用に当たっては注意が必要である。

(4) 題材例３　小学校高学年

1　題材名「屏風絵と私たちの生活」

2　目標

屏風絵を鑑賞し，全体の雰囲気や形や動きなどの造形的な特徴から感じたことや思ったことを話したり，友人と話し合ったりすることで，表現された世界や表現のよさをとらえ，生活の中の美術について考える。

3　題材について

本題材は，屏風絵を鑑賞する際、視点を変化させることで表現の意味や美術の作品が自分たちの生活と深い関連があることを理解するために，造形活動とは関連付けない単独の鑑賞授業として設定した。

4　主な学習活動（全１時間）

段　階	学習活動（目標レベル）
導　入	○事前準備 ・図１の屏風作品をカード状に作ったものを準備する。 ・意見を記入するためのワークシートを準備する。 ・実際の屏風絵の大きさを実感できるように，段ボールで実物大のものを用意する。 ○図１のカードを配付し，実際に折ってみる。（Ｈ） ○次の２点について，それぞれワークシートにまとめる。（ＨＩＪＫ） まとめ方の例 １　折る前に感じたこと，気付いたこと（形や色から感じたこと） ２　折ってみて感じたこと，気付いたこと　(変化を感じた場所) ・私は（　　）になったと思います。それは屏風を折ることで（　　）に見えるようになったからです。 ・私の着目した場所は（　　）です。
展　開	○それぞれの意見を発表する。 ○実物大のものを見せ，実際の大きさを実感し，学校で使うとすればどのような場面で活用するかを考えさせる。（Ｌ）
まとめ	○グループで話し合って意見をまとめ，発表する。 まとめ方の例

	私たちのグループでは，（　　）の場面で使うのが良いと思いました。その理由は，（　　）だからです。 ○発表を聞き，最初のイメージと変わったことや深まったことをワークシートに記入する。

5　子どもの発達特性を踏まえた目標レベルとの関連

目標レベルＬの達成のための題材例である。展開やまとめで操作性をもっと取り入れるとすれば，実物大の屏風を前に説明し合ったり，屏風に直接意見を書き込んだり，貼り付けたりする等の場面設定も考えられる。

(5) 題材例４　中学校第１学年

1　題材名「共通点はどこにある？」

2　目標

美術作品のよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもつとともに，それらを感じ取り，作品に対する思いや考えを説明し合うなどして見方や感じ方を広げる。

3　題材について

本題材は，異なる７枚の作品を班ごとに鑑賞し，それらの形や色，表現方法，表現技法等における共通点を見いだし並べ替え，その理由についてグループ単位で説明し合う活動を通して，作品に対する個人の見方や感じ方を広げるものである。

4　主な学習活動（全１時間）

段　階	学習活動（**目標レベル**）
導　入	○事前準備 ・図２の⑥～⑫の作品カード（各班配付用と大きめの説明用） ・カードを置く台紙 ○グループごとに７枚の作品カードを配付し，個人ごとに自分の好きな作品とその理由を伝え合う。（a）
展　開	○７枚の作品カードを並べて，その共通点を班ごとに話し合いながら，班としての並べ方を考える。（a） ○７枚の作品カードを並べ終え，その共通点を言葉で台紙に記入する。(a) ○班ごとに，その並べ方と並べた理由を表現方法との関連で全体に説明する。(b)
まとめ	○各班の並べ方やその理由について，質疑応答や意見交換を行う。(b)

5　子どもの発達特性を踏まえた目標レベルとの関連

目標レベルは，ｂ段階までとしているが，展開の仕方によっては，それぞれのあるいは特定の作品の歴史的，社会的な背景などを調べたり，作者の制作の意図を追究したりすることで，ｃ～ｇの目標に迫り，表現の魅力に関心をもって作品を見ることも可能である。

Ⅳ　研究のまとめ

本研究は，「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）」や学習指導要領から，図画工作・美術の発達特性（「感覚や体験」「他者と自分」「社会と文化」）と鑑賞指導の関連を検証し，子どもの発達特性に応じた指導プランを提案するものであった。

提案した鑑賞の指導プランは，発達特性ごとの目標レベルに合わせて「特定の課題に関する調査」で扱われた作品を基に作成した。共通の教材がないという教科の特性から，一つの教材を用いて小学校から中学校までの題材設定を行うということは，発達特性とその取扱いを明確にする必要があり，その意味において教科で培いたい力との関連を改めて意識化するのに有効であった。一つの教材を基にし，発達特性との関連で指導法を段階的に作り上げてみるという検討方法が，図画工作と美術をつなぎ，教科で培いたい力を系統立てて考える一つの方策であるということを提言して，本研究のまとめとする。

Ⅴ　本研究における課題

鑑賞指導を通して身に付けた力が，表現とどのような関わりをもっているのかという横のつながりを検証することが今後の課題である。表現と鑑賞は一体であり，豊かな鑑賞が「表現の能力」を高め，様々な表現が「鑑賞の能力」を高めるということを確かめていきたい。

＜引用文献＞
新井哲夫　2003　『図画工作・美術科における鑑賞授業モデル及びプログラムの開発に関する研究（平成12年度～平成14年度科学研究費補助金基盤研究(c)(2)研究成果報告書）』，pp.7-8

＜引用ＵＲＬ＞
国立教育政策研究所　『特定の課題に関する調査（図画工作・美術）調査結果』　http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_zukou/houkoku_zentai_001.pdf（2011.12.9）
文部科学省　中学校学習指導要領(平成20年3月告示)　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/bi.htm（2012.1.10）
文部科学省　中学校学習指導要領（平成10年12月告示，平成15年12月一部改正）　http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/007.htm（2012.1.10）
文部科学省　小学校学習指導要領（平成20年3月告示）　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/zu.htm（2012.1.10）
文部科学省　小学校学習指導要領（平成10年12月告示，平成15年12月一部改正）　http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122601/008.htm（2012.1.10）

＜参考文献＞
文部科学省　2010　『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』
文部科学省　2011　『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』
エリオット W.アイスナー　1986　『美術教育と子どもの知的発達』　黎明書房
上野行一　2001　『まなざしの共有』　淡交社
奥村高明　2010　『子どもの絵の見方－子どもの世界を鑑賞するまなざし－』　東洋館出版
教育美術　2012　『特集＜座談会＞図工・美術科の「特定の課題調査」を指導に生かすために』「教育美術１月号」　財団法人教育美術振興会